

1. 科目名 (単位数)	看護学 (救急処置を含む) (4 単位)	3. 科目番号	EDHE3313
2. 授業担当教員	高橋 登志子		
4. 授業形態	ディスカッション・講義を中心に、グループワーク・発表・演技演習などで構成する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す学生が、本科目を学ぶことの意味を考えることから取り組んでいく。教師が、点数ではなく「その児童・生徒」をみるように、看護は病気をみるのではなく生きている「その人」をみる。また、看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、養護実践に不可欠な看護学的知識や技術を中心に学んでいく。</p> <p>養護教諭は、教諭自らの身を用いて、その児童・生徒が言葉とからだで表現しているサインを状況と共に意図的に読み取る。そして目の前にいる児童・生徒が、命の危険を伴うのか、休養を要するのか、医療を要するのかを判断しなければならない。その上で、児童・生徒が生を営んでいくための心身機能に支障を来たす危険性を最小限にするために、教諭の身を用いて必要な手当てをしなければならない。本科目では、このような判断や手当てに必要なフィジカルアセスメント、感染予防、移送、包帯法などの知識や技術と、児童・生徒によくみられる症状や状態に応じた基本的な対応について学んでいく。</p> <p>また人間は、外界から酸素や食物を取り入れ、エネルギーをつくり出し、活動し、休息し、不要物を外界へ排泄し、生きている。これらの生理的な働きが生活・人生の基盤となり、これを整えていくことが自己実現へとつながる。食事・活動・排泄等の生きるための行動に関して、生理的な働きを保つための援助としてのみではなく、よりよく生きるために、生活行動を自立し、自律的な望ましい生活習慣を確立していくための、健康教育に必要な基礎知識としても学習する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生自らが、看護学を学ぶことの意味を見出し、記述することができるようになる。 2. フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識と技術を学び、これに基づいた身体機能の評価方法を説明できるようになる。 3. 感染予防に関する基礎的な知識と技術を学び、「清潔」「不潔」の区別ができるようになる。 4. 食事・排泄・活動・睡眠の意義と自立、および自律的な生活習慣に向けた援助・支援に関する知識を学び、養護教諭の役割を見出して記述することができる。 5. 保健室の機能を活かす環境づくりに関する知識と技術を学び、実践することができるようになる。 6. 移動・移送・包帯法に関する知識と技術を学び、学生間で実践できるようになる。 7. 児童・生徒によくみられる症状・状態に応じた看護的対応に関して学び、代表的な症状・状態に対する対応について記述することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1. バイタルサインの正常値と異常な状態についてまとめて、ヘルスアセスメントの関連性を述べてください。</p> <p>課題 2. 感染経路の遮断の演習からあなたの考えを述べてください。</p> <p>課題 3. 心肺蘇生法・AEDの使用目的・方法・注意点をまとめてください。</p> <p>課題 4. 第 2 5 回～第 2 9 回から、1 題選択しまとめてください。</p> <p>課題の提出方法については授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>藤井 寿美子/山口 昭子/佐藤 紀久榮/采女 智津江【編】 養護教諭のための看護学 四訂版 大修館書店 2018</p> <p>東京アカデミー(編集) 教員採用試験対策 ステップアップ問題集 (11) 専門教科 養護教諭 2022 年度版 2020</p> <p>【参考書】</p> <p>岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房、2013</p> <p>新版 ここがポイント! 学校救急処置: 基本・実例、子どものなぜに答える 草川 功 全養サ書籍編集委員会 2018 そのほか必要に応じて紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生自らが、看護学を学ぶことの意味を見出し、記述できているか。 2. フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識と技術を学び、これに基づいた身体機能の評価方法を説明できているか。 3. 感染予防に関する基礎的な知識と技術を学び、「清潔」「不潔」の区別ができるようになっているか。 4. 保健室の機能を活かす環境づくりに関する知識と技術を学び実践することができるようになったか。 5. 食事、睡眠、運動の意義と自立、および自律的な生活習慣に向けた支援・援助に関する知識を学び、養護教諭の役割を見出すことができたか。 6. 移動・移送・包帯法に関する知識と技術を学び、学生間で実践できたか。 7. 児童・生徒にみられる症状・状態に応じた学校看護的対応に関して学び、代表的な症状・状態に対する対応を修得できたか。 <p>○評定の方法 (下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への積極的参加態度 (20%) 2. 演習、グループ発表、授業への振り返り (20%) 3. 課題レポート (30%) 4. 小テスト、期末テスト (30%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている 3 / 4 以上の出席が単位の修得の条件であることをも配慮する。</p>		

12. 受講生へのメッセージ	看護学は、医学的な専門用語をはじめ、養護教諭が遭遇しやすい一般的な疾患や症状を理解することが求められます。よって、わかりやすく解説をしながら授業を展開しますが、授業終了後は復習することが必要になります。 授業では自分の意見が言える、人の意見がきける、質問ができるなど積極的な態度で学習してほしいと考えています。 また、演習・実習は授業中だけでは十分出来ないことから、予習、復習をマスターしておくことが必須になります。演習・実習は看護・援助する側（養護教諭・看護師などの役）とされる側（児童生徒、幼児、患者役）の相互行為から成り立っていることを体験して下さい。		
13. オフィスアワー	授業日は、授業と授業の間の時間、授業終了後に対応する。 授業日以外に連絡を必要とした場合は p-totakaha@ed.tokyo-fukushi.ac.jp に連絡してください。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 1) 本科目の学習目的、学習方法について 養護教諭と看護学の関連性について 看護と健康 1) 看護の概念・定義、 2) 健康の定義、健康観の変遷、ヘルスプロモーション、疾病の予防対策	事前学習	テキスト pp. 2～7 内容を読んで養護教諭を目指す学生、その他を目指す学生が看護学を学ぶ意味について考えて臨むこと。
		事後学習	看護の概念・定義、健康の定義についてまとめる。養護教諭（看護学を必要とする資格を目指す学生）にとって看護学の関係についてのあなたの考えをまとめる。
第2回	看護倫理と養護教諭の職業倫理について 1) 看護の倫理 2) 子供の尊厳と法や規則理解 3) 養護教諭の職業倫理と活動範囲 4) 望ましい養護教諭について	事前学習	テキスト pp. 2～7 内容を読んで養護教諭を目指す内容確認して臨むこと。
		事後学習	養護教諭としての職業倫理について説明できるようにまとめておくこと。望ましい養護教諭についてまとめておく。
第3回	基本となる看護行為 1) コミュニケーション 2) 観察 3) 看護過程 疾病の経過に伴う看護 病状ステージ 主な治療・処置に伴う看護	事前学習	テキスト pp. 13～27 配布した資料の内容を読んで臨む
		事後学習	自己のコミュニケーション能力を理解し、自己の課題を明確にしておく。
第4回	感染予防 1) 感染予防の基礎知識… 3原則 2) 学校における感染予防と発生時の対応	事前学習	テキスト pp. 45～50 内容を読んで臨むこと。
		事後学習	感染予防の基礎知識を復習しておく。
第5回	3) 学校における感染経路の遮断の演習 4) 無菌操作(撮子、滅菌物等)演習	事前学習	テキスト pp. 202～205 と「学校において予防すべき感染症」から滅菌操作や学校での予防対策ができるようにして臨む。
		事後学習	学校での感染経路の遮断をまとめること。無菌操作について実践できるように自己の演習を振り返ってしておく。
第6回	ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとは 2) ヘルスアセスメントのプロセス フィジカルアセスメント① 1) バイタルサイン (体温、脈拍、呼吸、血圧) について①	事前学習	テキスト pp. 206～211 の内容を読んでバイタルサインの測定をできるように練習し臨むこと。また、第6回にヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントに関する配付資料を読んで臨むこと。
		事後学習	バイタルサインの正常値と異常な状態についてまとめておくこと。
第7回	2) バイタルサイン (体温、脈拍、呼吸、血圧) について② 3) 問診、視診、聴診、打診、触診等について 4) 緊急スクリーニング(緊急度の判断)	事前学習	テキスト pp. 206～211 の内容を読んでバイタルサインの測定をできるように練習し臨むこと。また、第5回にヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントに関する配付資料を読んで臨むこと。
		事後学習	問診、視診、聴診、打診、触診についてバイタルサインと関連してまとめておくこと
第8回	3) バイタルサインの演習 4) 問診、視診、聴診、打診、触診等の演習	事前学習	第7回目に配布した資料内容と第8回の事後学習した資料内容を理解して臨むこと。
		事後学習	バイタルサインの測定の演習で何ができたか、何が難しかったかを提示された評価レポート用紙に記入し提出する。
第9回	小児看護 1) 小児看護の基礎知識 2) 小児各期の健康障害 3) 突然死 4) こころのケア フィジカルアセスメント 小児期における症状や訴えに関する実際	事前学習	テキスト pp. 30～44、pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭にとって小児看護の重要性と小児期における症状や訴えをまとめておくこと。

第10回	思春期の看護 1) 思春期看護の基礎知識 2) 思春期の健康にかかわる問題 3) 青少年の喫煙・飲酒・薬物乱用に関わる問題 4) 思春期の健康障害 フィジカルアセスメント 思春期における症状や訴えに関する実際	事前学習	テキスト pp. 51～70、pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭にとって思春期看護の重要性和思春期における症状や訴えをまとめておくこと。
第11回	成人・老年期看護 1) 成人看護の基礎知識 2) 成人の健康障害 3) 高齢者の看護 4) 高齢者の健康障害	事前学習	テキスト pp. 79～91、pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭にとって成人・老年期看護の重要性をまとめること。
第12回	フィジカルアセスメント 成人・老年期における症状や訴えに関する実際	事前学習	テキスト pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料を読んで臨むこと。
		事後学習	成人・老年期における症状や訴えをまとめておくこと。
第13回	眼科疾患と看護 1) 眼に関する基礎知識 2) 眼の疾患とけが 3) 眼科ケアの基本	事前学習	テキスト pp. 92～100、眼の解剖生理の内容を確認して臨むこと。
		事後学習	養護教諭にとって眼科疾患の重要性をまとめること。
第14回	フィジカルアセスメント 眼科における症状や訴えに関する実際	事前学習	テキスト pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料を読んで臨むこと。
		事後学習	耳鼻咽喉科における症状や訴えをまとめておくこと。
第15回	耳鼻咽喉科疾患と看護 ・耳疾患 1) 耳に関する基礎知識 2) 耳の疾患 ・鼻疾患 1) 鼻に関する基礎知識 2) 鼻の疾患 ・咽頭・喉頭疾患 1) 咽頭・喉頭に関する基礎知識 2) 咽頭・喉頭の疾患	事前学習	テキスト pp. 101～105、耳鼻咽喉科の解剖生理の内容を確認して臨むこと
		事後学習	養護教諭にとって耳鼻咽喉科疾患の重要性をまとめること。
第16回	フィジカルアセスメント 耳鼻咽喉科における症状や訴えに関する実際	事前学習	テキスト pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料を読んで臨むこと。
		事後学習	耳鼻咽喉科における症状や訴えをまとめておくこと。
第17回	皮膚科疾患と看護 1) 皮膚に関する基礎知識 2) 注意すべき症状と皮膚疾患	事前学習	テキスト pp. 112～121、耳鼻咽喉科の解剖生理の内容を確認して臨むこと
		事後学習	養護教諭にとって皮膚科疾患の重要性をまとめること。
第18回	フィジカルアセスメント 皮膚科における症状や訴えに関する実際	事前学習	テキスト pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料を読んで臨むこと。
		事後学習	皮膚科における症状や訴えをまとめておくこと。
第19回	歯科疾患と看護 1) 歯・口に関する基礎知識 2) 歯科の疾患 フィジカルアセスメント 歯科における症状や訴えに関する実際	事前学習	テキスト pp. 122～132、歯科の解剖生理の内容、pp. 133～152 の訴えや症状に対する理解や看護と配付資料を確認して臨むこと。
		事後学習	養護教諭にとって歯科疾患の重要性和歯科における症状や訴えをまとめておくこと。
第20回	障害のある子どもの理解と看護 1) 障害の理解 2) 発達障害 3) 障害者のある子ども看護	事前学習	テキスト pp. 153～160 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭として障害のある子どもの理解した看護についてまとめておくこと。
第21回	保健室の環境整備のための基礎知識 1) 保健室の環境調整、備品等について 2) ベッドメイキング ベッドメイキングの演習	事前学習	ベッドメイキングの方法・留意点であるテキスト pp. 112～120 の内容と第5回目に配布した資料を理解して臨む。
		事後学習	ベッドメイキングの演習での自己の課題を明確にしておくこと。また、保健室での活用を考えまとめておく
第22回	養護教諭が活用する体位と移動 1) ボディメカニクスの原理・原則と活用法 2) 体位の種類と特徴 3) 体位変換の方法の基礎知識 4) 車いすの移動・移乗方法の基礎知識 5) 搬送法の基礎知識	事前学習	テキスト pp. 194～196、第19回に配付する資料の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	ボディメカニクスの基礎知識を前のベッドメイキングの演習を振り返り意義を考えておく。車いすの移動・移乗の方法を確認しておく。

第23回	体位と移乗の演習 1) 体位変換 2) 車いすの移動・移乗	事前学習	テキスト pp.194～196、第21回に配付する資料の内容と学校の保健室で活用法を考えて臨む。
		事後学習	体位変換、車いす移動・移乗実践から自己の課題を確認してレポートする。
第24回	養護教諭が活用する食事・排泄 1) 子どもにとっての食事と栄養について 2) 食生活への支援・援助について 3) 排泄の意義と排泄に関する基礎知識 4) 排泄への支援・援助について	事前学習	テキスト pp.197～198の第21回に配付する資料の内容と学校の保健室で活用法を考えて臨む。
		事後学習	養護教諭として、子どもにとっての食事の意義、排泄の意義について考えをまとめておく。
第25回	養護教諭が活用する清潔・休息と睡眠・活動 1) 健康生活における清潔の意義と清潔に関する基礎知識 2) 清潔への支援・援助について 3) 休息・睡眠の意義と睡眠に関する基礎知識 4) 休息への支援援助について 5) 活動の意義と活動の基礎知識 6) 活動への支援・援助について	事前学習	テキスト pp.194～198、第21回に配付する資料の内容と学校の保健室で活用法を考えて臨む。
		事後学習	養護教諭として、子どもにとっての清潔・休息と睡眠・活ついて考えをまとめておく。
第26回	心肺蘇生法・AEDの基礎知識 止血法・包帯法・電法について	事前学習	テキスト pp.199～200、pp.211～227、第20回に配布資料の内容を読んで臨む。
		事後学習	配布資料に心肺蘇生法・AEDの使用目的・方法・注意点をまとめる。 心肺蘇生法・AEDの演習から自己の課題を確認しておくこと。
第27回	止血法・包帯法・電法の演習	事前学習	テキスト pp.199～200、pp.211～227、第20回に配布資料の内容、第26回の学びから演習ができるように臨む。
		事後学習	止血法・包帯法・電法の演習から自己の課題を確認しておく。
第28回	事例検討① グループ学習 学校で発生する外傷を想定し、支援と援助をグループでまとめて発表する。	事前学習	第25回の配布資料をまとめて、グループワークでの支援・援助内容の視点で臨む
		事後学習	発表・質疑・応答、他のグループの発表から学んだことをまとめておく。
第29回	事例検討② グループ学習 学校で発生する糖尿病またはてんかんを想定し、支援と援助をグループでまとめて発表する。	事前学習	第25回の配布資料をまとめて、グループワークでの支援・援助内容の視点で臨む。
		事後学習	発表・質疑・応答、他のグループの発表から学んだことをまとめておく。
第30回	まとめ	事前学習	看護学の「全体のまとめ」を考えて臨む。
		事後学習	看護臨床実習の授業に向けて看護学の「全体のまとめ」をする。
期末試験			